

安全データシート

ページ: 1/12

BASF 安全データシート

日付 / 改訂: 12. 03. 2025

製品: PVP-Iodine 30/06 / ポビドンヨード 30/06

バージョン: 8.3

(30034963/SDS_GEN_JP/JA)

印刷日: 19.10.2025

1. 化学品及び会社情報

品名:

PVP-Iodine 30/06

ポビドンヨード 30/06

用途: 医薬品

供給者の会社情報、住所及び電話番号:

BASFジャパン株式会社

東京都中央区日本橋室町3丁目4番4号

0V0L 日本橋ビル 3階

電話番号: +81-3-5290-3000

Eメールアドレス: Japan-SDS-Info@basf.com

緊急連絡先:

電話番号: 03-6634-2245

+49 180 2273-112 (International emergency number)

2. 危険有害性の要約

【化学品のGHS分類】:

特定標的臓器毒性 (反復暴露) (甲状腺): 区分2

水生環境有害性 短期(急性): 区分2

水生環境有害性 長期(慢性): 区分2

眼に対する重篤な損傷: 区分1

皮膚刺激性: 区分2

【GHSラベル要素】:

絵表示又はシンボル:



注意喚起語:

危険

危険有害性情報:

- H318 重篤な眼の損傷。
H315 皮膚刺激。
H373 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ(甲状腺)。
H401 水生生物に毒性。
H411 長期継続的影響によって水生生物に毒性。

注意書き（安全対策）:

- P280 保護手袋と保護眼鏡または保護面を着用すること。
P273 環境への放出を避けること。
P260 粉じんを吸入しないこと。
P264 取扱い後は汚染された体の部分をよく洗うこと。

注意書き（応急措置）:

- P305 + P351 + P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P310 直ちに医師に連絡すること。
P302 + P352 皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。
P391 漏出物を回収すること。
P362 + P364 汚染された衣類を脱ぎ、そして再使用する場合には洗濯をすること。

注意書き（廃棄）:

- P501 適切に分別した内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄処理業者に廃棄を委託すること。

GHS分類に関係しない又は GHSで扱われない他の危険有害性:

本品は、条件によっては粉塵爆発を起こす可能性がある。

3. 組成及び成分情報

化学特性

化学物質・混合物の区別: 単一製品

1-ビニル-2-ピロリドン重合体と二ヨウ素の化合物

CAS番号: 25655-41-8

4. 応急措置

[応急措置をする者の保護に必要な注意事項]:

汚れた衣服は取り替える。

[吸入した場合]:

安静にし、新鮮な空気のある場所に移動させ、医師の診察を受けること。直ちにコルチコステロイドエアゾール製剤を吸入すること。

[皮膚に付着した場合]:

直ちに水で十分に洗い流した後無菌包帯を巻き、医者への診察を受ける。

[眼に入った場合]:

直ちにまぶたを開き流水で15分以上洗い流した後、眼科医の診察を受ける。

[飲み込んだ場合]:

直ちに口をすすぎ、200-300mlの水を飲み、医者への診察を受ける。

[医師に対する特別な注意事項]:

症状: 情報、すなわち症状および影響に関する追加情報は、2章で利用可能なGHSラベルのフレーズ及び11章で利用可能な毒性評価に含まれる。

処置: 症状に応じて処置(洗浄・機能回復)を講じる。特に解毒剤なし。

5. 火災時の措置

[適切な消火剤]:

噴霧水、二酸化炭素、粉末、乾燥砂、泡

[使ってはならない消火剤]:

棒状放水

[火災時の特有の危険有害性]:

シアン化水素、ヨウ素、二酸化炭素、窒素酸化物

火災の場合、前述の物質／物質グループが放出される可能性がある。粉塵爆発の危険性あり。

[消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置]:

自給式呼吸器および耐薬品性保護衣を着用すること。

[追加情報]:

汚染された消火用水を別途回収すること。下水または廃水処理施設に流さないこと。汚染された消火廃水は法令に従って適切に処分する。

6. 漏出時の措置

[人体に対する注意事項, 保護具及び緊急時措置]:

保護具を着用する。保護具に関する情報については安全データシート第8章を参照のこと。粉塵を発生させない。十分な換気を確保すること。粉塵を吸入しないこと。皮膚、眼、衣服への接触を避ける。

[環境に対する注意事項]:

排水溝等に流出させない。製品を水路や下水道に漏洩させた場合には、役所に報告すること。

[封じ込め及び浄化の方法及び機材]:

少量の場合: 粉塵結合剤で回収し、廃棄すること。

大量の場合: 掃き集めるかすくい取る。

法令に従って吸着剤を廃棄すること。粉塵を発生させないこと。清掃作業は、呼吸保護具を着用して行なうこと。

[追加情報]: 空気中に埃をまき散らすことを避ける(例: 圧縮空気で埃の面をクリーニングする)。粉塵の生成と蓄積を避けることー粉塵爆発の危険性。粉塵の濃度が十分になると、空気中に爆発性混合物が発生する可能性がある。散粉が最小限となるように取扱い、直火及び他の発火源を除くこと。

7. 取扱い及び保管上の注意

[取扱い]

粉塵を発生させない。作業場の換気を十分に行う。適切な保護衣および眼/顔面用の保護具を着用すること。皮膚、眼、衣服への接触を避ける。容器は密閉して保管する。

安全取扱注意事項:

本品は粉塵爆発を起こす危険性がある。粉塵を発生させない。静電気防止対策をとる。発火源を近づけない。消火器常備のこと。耐爆発性器具及び装備を用いること。

粉塵爆発クラス: 粉塵爆発クラス1 ($0 < K_{st} \text{値 (爆発指数)} \leq 200 \text{ bar m S-1}$).

[保管]

保管条件に関する追加情報: 容器は密閉して、乾燥した涼しい場所に保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

【保護具】

[呼吸用保護具]:

低濃度において、または短時間有効な適切な呼吸保護具: 固体粒子に対して低効率の微粒子フィルター(例: EN 143 P1型もしくはEN 149 FFP1型)。

[手の保護具]:

長時間にわたる直接接触でも問題ない素材でできた耐薬品性保護手袋 (EN ISO 374-1) (保護指針6に準ずることが望ましい。EN ISO 374-1によると、透過時間は480分以上であること) : ニトリルゴム (0.4 mm)、クロロプレンゴム (0.5 mm)、ブチルゴム (0.7 mm) など。

補足: 仕様は、試験、文献データ及び手袋製造業者の情報に基づくもの、あるいは類似の物質から類推されたものである。条件が多いため (温度など)、耐薬品性保護手袋の実際の使用時間は試験で別途得られた物質透過時間よりもかなり短いと考えなければならない。

[眼の保護具]:

密着性安全ゴーグル (飛沫よけ型ゴーグル)

[皮膚及び身体の保護具]:

作業および予想暴露量に基づいて、保護具を選択すること。前掛け、保護靴、耐薬品性保護衣等 (飛散の場合は、EN 14605に従い、粉塵の場合は、EN ISO 13982に従う。)

[一般的な安全及び衛生対策]:

労働安全衛生に関する実施基準に従い、取り扱うこと。所定の保護具に加えて、上下一体型作業衣の着用が必要である。粉塵を吸入しないこと。皮膚、眼、衣服への接触を避ける。作業場では飲食や喫煙をしない。休憩前とシフトの終わりに手や顔を洗うこと。作業服は、他の物と分けて保管すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態:	無晶形粉末	
色:	褐色	
臭い:	ほぼ無臭	
pH:	1.8 (約 101.5 g/kg, 20 ° C)	(pH計)
融点:	> 180 ° C ゆっくり分解	(OECDテストガイドライン 102)
沸点:	(1,013 hPa) 物質が分解するため、測定不能。	
引火点:	該当しない、製品は固体である。	
蒸発率:	この製品は、不揮発性固体である。	
可燃性 (固体/ガス):	可燃性低い。	(VDI 2263, sheet 1, 1.2 (May 1990))
爆発下限界:	分類と表示に関係しない固体用に関するものである。	

爆発上限界:

分類と表示に関係しない固体用に関するものである。

熱分解:

> 180 ° C , 20 J/g

自己発火性:

構造特性から、この製品は、自己発火試験の種類: 室温において自然発生する自己発火性に分類されない。

自己発熱性:

UNクラス 4.2 の自然発火性物ではない。(VDI 2263, sheet 1, 1.4.1)

最小発火エネルギー:

本品は粉塵爆発を起こす危険性がある。

爆発危険有害事項:

製品は、爆発性ではないが、空気と塵の混合により粉塵爆発の可能性がある。

火災を引き起こす性質:

火災伝播性はない。

蒸気圧:

< 0.1 hPa
(約 20 ° C)

相対密度:

1.365 (OECDテストガイドライン 109)
(20 ° C)

嵩密度:

450 kg/m³

相対ガス密度 (空気):

適用されない

水に対する溶解性:

約 700 g/l
(20 ° C)

溶解度 (定性的)

溶媒: アルコール類, エタノール
可溶

n - オクタノール/水分配係数 (log Pow):

< -3.1 (社内試験法)
(23 ° C)

粘度:

該当しない、製品は固体である。

粒子特性

粒度分布:

通常 > 100 µm (D50, 体積分布, ISO 13320-1)

10. 安定性及び反応性

[避けるべき条件]:

粉塵を発生させない。 静電気防止措置をとる。 あらゆる着火源（熱、スパーク、裸火など）を近づけない。

熱分解: $> 180^{\circ}\text{C}$, 20 J/g

[混触危険物質]:

還元剤, 金属

金属の腐食: 水や湿気の存在下で、金属腐食の可能性を排除できない。

[危険有害な分解生成物]:

粉塵爆発の危険性あり。

[危険分解物]:

通常の取扱い条件下で危険分解物なし。

化学安定性:

製品は取扱説明書に従って貯蔵すれば安定である。

反応性:

指示通りの貯蔵と取扱い条件下では有害な反応は起こさない。

11. 有害性情報

ばく露経路

急性経口毒性

実験または計算によるデータ:

LD50（半数致死量）ラット（経口）: $> 4,640\text{ mg/kg}$

急性皮膚毒性

LD50（半数致死量）ラット（経皮）: $> 2,500\text{ mg/kg}$

死亡なし

急性毒性の評価

単回の経口摂取であれば、実質上毒性はなし。 単回の皮膚付着であれば、実質上毒性はなし。

症状

情報、すなわち症状および影響に関する追加情報は、2章で利用可能なGHSラベルのフレーズ及び11章で利用可能な毒性評価に含まれる。

刺激性

刺激性作用の評価:

皮膚を刺激する。 眼に重篤な損傷のリスクがある。

実験または計算によるデータ:

皮膚腐食性／刺激性 ウサギ: 刺激性あり。(OECDテストガイドライン404)

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 ウサギ: 回復不可能な損傷 (OECDテストガイドライン405)

呼吸器感作性又は皮膚感作性

感作性の評価:

動物実験では、皮膚感作性は認められなかった。

実験または計算によるデータ:

モルモットに対するmaximization法 モルモット: 感作性なし (OECDテストガイドライン406)

生殖細胞変異原性

変異原性の評価:

細菌類および哺乳類を用いた種々の試験において、変異原性は認められなかった。

発がん性

発がん性の評価:

データなし。

生殖毒性

生殖毒性の評価:

データなし。

発生毒性

催奇形性の評価:

動物実験では、催奇形性を示さなかった。

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

利用できる情報に基づくと、単回ばく露後に予測される特定標的臓器毒性はない。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

反復投与毒性の評価:

長期暴露により重篤な健康障害の危険。甲状腺の損傷。

誤えん有害性

適用せず

12. 環境影響情報

生態毒性

水生生物に対する毒性の評価:

水生生物に対し急性毒性を示す。廃水処理施設に低濃度で適切に流入すれば、活性汚泥の分解活性を阻害しない。

魚類に対する毒性:

LC50 (半数致死濃度) (96 h) 6.78 mg/l, ウグイ (学名: *Leuciscus idus*) (DIN 38412 第15部, 止水式)

水生無脊椎動物:

EC50 (48 h) 3.23 mg/l, オオミジンコ (学名: *Daphnia magna*) (OECDテストガイドライン 202-1, 止水式)

毒性に関する記述は、実測濃度による。

水生植物:

EC50 (72 h) 4.91 mg/l (成長率), 緑藻 (学名: *Desmodesmus subspicatus*) (OECDテストガイドライン 201, 止水式)

毒性に関する記述は、実測濃度による。

微生物/活性汚泥への影響:

EC10 (10%影響濃度) (17 h) 270 mg/l, プチダ菌 (学名: *Pseudomonas putida*) (DIN 38412 第8部, 好気性)

魚類に対する慢性毒性:

魚毒性に関するデータなし。

水生無脊椎動物に対する慢性毒性:

ミジンコに対する毒性については、データなし。

陸生生物に対する毒性の評価:

データなし。

移動性

環境区分間の輸送評価:

土壌の固相には吸着しないと考えられる。

残留性・分解性

除去情報:

< 20 % DOC減少 (3 h) (OECDテストガイドライン 302B) (好気性, 家庭廃水由来の活性汚泥、順化済み)

< 10 % (28 日) (ISO 14593) (好気性, 家庭廃水由来の活性汚泥)

水中での安定性評価:

データなし。

生体蓄積性

BASF 安全データシート

日付 / 改訂: 12. 03. 2025

製品: PVP-Iodine 30/06 / ポビドンヨード 30/06

バージョン: 8.3

(30034963/SDS_GEN_JP/JA)

印刷日: 19.10.2025

生体蓄積性の可能性評価:

構造的特性から、ポリマーは生物学的に利用可能ではなく、生体蓄積性はないと考えられる。

13. 廃棄上の注意

国のまたは地方の法定事項に従うこと。

14. 輸送上の注意

国際陸上輸送:

国連番号もしくはID番号: UN 3077

品名 (国連輸送名): 環境有害性物質 (固体) (他に品名が明示されているものを除く。)
(ポリビニルピロリドン ヨード錯体)

国連分類 (輸送における危険有害性クラス): 9, EHSM

容器等級:

III

環境有害性:

該当

使用者への特別注意事項: 知見なし

海上輸送

IMDG

国連番号もしくはID番号: UN 3077

品名 (国連輸送名): 環境有害性物質 (固体) (他に品名が明示されているものを除く。)
(ポリビニルピロリドン ヨード錯体)

国連分類 (輸送における危険有害性クラス): 9, EHSM

容器等級:

III

環境有害性:

該当

海洋汚染物質: 該当

使用者への特別注意事項:

EmS: F-A; S-F

Sea transport

IMDG

UN number or ID number: UN 3077

UN proper shipping name: ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N.O.S. (POLYVINYLPIRROLIDONE IODINE COMPLEX)

Transport hazard class(es):

9, EHSM

Packing group:

III

Environmental hazards:

yes

Marine pollutant:

YES

Special precautions for user:

EmS: F-A; S-F

航空輸送

IATA/ICAO

国連番号もしくはID番号: UN 3077

品名 (国連輸送名): 環境有害性物質 (固

Air transport

IATA/ICAO

UN number or ID number: UN 3077

UN proper shipping

ENVIRONMENTAL

BASF 安全データシート

日付 / 改訂: 12. 03. 2025

製品: PVP-Iodine 30/06 / ポビドンヨード 30/06

バージョン: 8.3

(30034963/SDS_GEN_JP/JA)

印刷日: 19.10.2025

	体) (他に品名が明示されているものを除く。) (ポリビニルピロリドン ヨード錯体)	name:	LY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N.O.S. (POLYVINYLPIRROLIDONE IODINE COMPLEX)
国連分類 (輸送における危険有害性クラス):	9, EHS	Transport hazard class(es):	9, EHS
容器等級:	III	Packing group:	III
環境有害性:	該当	Environmental hazards:	yes
使用者への特別注意事項:	知見なし	Special precautions for user:	None known

IMO機器によるバルクの海上輸送

Maritime transport in bulk according to IMO instruments

海上のバルク輸送は目的としない。
指針番号: 171

Maritime transport in bulk is not intended.

国内輸送規制はSDSの15章を参照のこと。

[追加情報]

下記の規定に基づき、正味5kg以下の入目で適切な容器で出荷される製品に対してnon-DGとして適用される。:

ADR, RID, ADN: Special Provision 375;

JT/T617.3;

IMDG: 2.10.2.7;

IATA: A197;

TDG: Special Provision 99(2);

49CFR: § 171.4 (c) (2).

15. 適用法令

消防法: 非危険物

船舶安全法
有害性物質 (JP)
該当物質

その他の規則

もしも、このSDSの他の章に記載されていない法的情報がある場合には、この章に記載されます。

16. その他の情報

他の用途については、製造業者に問い合わせること。対応する職場作業員保護措置に従うこと。

【JIS Z 7252/7253 : 2019準拠】 本SDSに記載されていない必要項目は、情報がないことを示す。

本SDSにおいて労働安全衛生法の通知対象物質の濃度が幅表示の場合は、営業秘密である場合を含みます。

左余白の縦線は前バージョンからの改訂部分を示す。

本安全データシートに含まれるデータは、当社の最新の知識及び経験に基づいて製品を安全性基準の観点からのみ説明するものであり、製品の特性（製品規格）を説明するものではありません。また、当該製品が特定の目的に適した性能・特性を有しているか否かを判断するためのものでもありません。本製品の使用者は自己の責任において製品に関わる特許等の所有権を尊重し現行の法律及び規則を遵守して下さい。